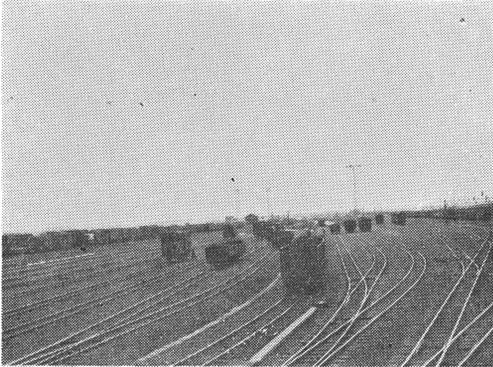


地方だより

岩見沢測候所



岩見沢駅操車場



岩見沢測候所

岩見沢の地名について市勢要覧は次のように述べている。「岩見沢市はアイヌ語の地名の多い北海道において数少ない和名である。このことから未開時代はアイヌ人からもかえり見られなかったような原始林と湿地帯であったと考えられる。開村記念碑によれば明治10年頃幌内煤田を開採するため開拓使は札幌、幌内間の道路の開さくに当った。この工事に従事する役人、人夫のために当市の北部幾春別川辺に休泊所を設け仮泊、休憩の場所とした。ここで風呂を沸かし、工事の埃と疲労をいやした。彼らにとっては唯一の憩いの場所として「湯浴沢」(ゆあびざわ)と称するようになり、これが転訛して「いわみざわ(岩見沢)となったのが地名の由来である」。

明治15年11月幌内鉄道が開通し岩見沢駅が出来、当市は急速に発展していったのである。本年度開基80年を迎えることになり盛大な式典が去る8月挙行されたばかりである。現在人口約7万本道交通の要衝であり、ことに駅操車場は関東以北最大の規模と施設を誇っている。また、市内には「東山自然公園」などもあって、うっ蒼たる原始林は樹種400種に及ぶ自然林を形成し、四季に咲き乱れる桜、ツツジなどが池中にその美景を映え、山紫

水明な憩いの場として広く市民に親しまれている。一方当市は穀倉地帯である石狩平野のほぼ中央に位し、空知支庁の所在地としても知られている。当支庁管内の米の生産高は全北海道の1/3、石炭は80%を占めている。人口は約88万、10市を擁し、面積は6583平方軒となっている岩見沢測候所は以上のような地域社会を対称とする地区測候所であるが、それに加えて水理水害業務も担当し、5通報所を推持管理しながら防災活動に協力している。また、岩見沢は全道鉄道の要ともなっているが、特殊の降雪状態を示すため冬季全道の交通を麻痺され民衆に大きな影響を及ぼすので当局からは積雪量5種の誤差範囲で予報を要求されている。これは現在の予報技術からは少し無理とは思われるが、その精度向上に務めた結果まづまづの成績をあげ喜ばれている。しかしながら当所の定員は充分とは云えず通報所を含めて24名となっている。恐らく、このような測候所は本州でも例を見ないであろう。最近地元民による農業気象観測所の設置並に気象台昇格運動も進められているようだが、もともと当所はいわば、敗戦の落し子として生れたようなもので当初は産業気象研究所として設立された。その後昭和26年に地区測候所と生まれ変わり今日に至ったもので年令的に見ればまだ未成年の若輩である。しかしながら当所によせる農業団体の期待は大きく毎年春発表される長期予報の説明会には連日多忙を極め、席の温まる間もない程である。

明治初期の開拓当時は北海道では米作は不可能であるとまで云われていたが、その後次第に寒地農業の研究が進められ現在では新潟、秋田をしのぐ米の生産県にのし上り北海道米は道外にも輸出されるようになった。これは一朝一夕になったわけではなく、幾多先輩の血のじむような開拓精神の賜と感謝せずにはいられない。



東山自然公園

(佐々木一夫記)